

2024年3月期(2023年度) 連結決算について

1. 2023年度連結決算・・・4期ぶりの黒字化

国際線は水際対策の撤廃に加え円安効果の後押しもあり、インバウンドが好調なこと、国内線は新型コロナウイルスの感染症法上の分類が変更されたことなどにより、発着回数及び旅客数が前期を大幅に上回りました。特に、外国人旅客数及び国内線旅客数は共に開港以来の最高値を更新いたしました。国際航空貨物量は、中国経済の景気減速等により前期を下回りました。これらの結果、営業収益は2,169億円となり、3期連続の増収となりました。

営業費用は、売上に連動する費用等の増加がありましたが、引き続きコストマネジメントの徹底に努めました。その結果、4期ぶりの黒字計上となり、営業利益は前期の317億円の損失から447億円改善の129億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期の502億円の損失から602億円改善の100億円となりました。

(単位:億円)

科目	2022年度	2023年度	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/Ax100
営業収益	1,313	2,169	856	165.2
営業費用	1,631	2,039	408	125.0
営業利益	△317	129	447	-
経常利益	△482	106	589	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△502	100	602	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

【参考】2023年度航空取扱量実績

区分	2022年度	2023年度	増減	
	実績 A	実績 B	数量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数(万回)	17.7	21.9	4.1	123.6
国際線	12.5	16.8	4.3	134.4
国内線	5.2	5.1	△0.1	97.6
航空旅客数(万人)	2,051	3,525	1,474	171.9
国際線	1,355	2,744	1,388	202.4
国内線	695	781	85	112.3
国際航空貨物量(万トン)	219	184	△35	84.0

(注)航空取扱量は、単位未満を切り捨てて表示しています。

2. 2024 年度連結業績予想・・・4 期連続業績改善

2024 年度の航空取扱量見通しは、コロナ禍前に迫る水準まで回復すると想定しております。

国際線の発着回数及び旅客数は LCC の増便に加え、中国からの訪日旅行商品の販売再開による影響が通期化することから、前期を上回ると想定しました。国内線の発着回数は新規に運航する貨物便があることから前期を上回り、旅客数は前期並みの水準を維持するものと想定しました。

その結果、営業収益は 4 期連続の増収、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で増益(4 期連続業績改善)となると想定しております。

2024 年度においても、需要回復に対応した施設運営や老朽化対策、売上に連動する費用等の増加要素がありますが、空港の安全と安定運用を大前提に、引き続きコストマネジメントを徹底し、業績予想の達成に努めてまいります。

なお、実際の業績は、これら航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

【参考】2024 年度の航空取扱量見通し及び業績予想

区 分	2023 年度	2024 年度	増 減	
	実績 A	見通し B	数 量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数 (万回)	21.9	25.1	3.1	114.2
国際線	16.8	19.7	2.8	116.8
国内線	5.1	5.4	0.2	105.7
航空旅客数 (万人)	3,525	3,990	464	113.2
国際線	2,744	3,210	465	116.9
国内線	781	780	△1	99.9
国際航空貨物量 (万トン)	184	190	5	102.9

(注)航空取扱量は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位:億円)

科 目	2023 年度	2024 年度	増 減	
	実績 A	予想 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	2,169	2,431	261	112.1
営 業 費 用	2,039	2,230	190	109.3
営 業 利 益	129	200	70	154.2
経 常 利 益	106	167	60	156.3
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	100	121	20	120.3

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

3. セグメント別 2023 年度連結決算／2024 年度連結業績予想

(単位:億円)

	2022 年度	2023 年度	増 減		2024 年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/Ax100	予想 C	金額 C-B	% C/Bx100
営業収益※	1,313	2,169	856	165.2	2,431	261	112.1
空港運営事業	602	903	301	150.0	1,040	136	115.1
リテール事業	377	952	575	252.5	1,071	118	112.4
施設貸付事業	303	283	△20	93.2	289	5	102.0
鉄道事業	29	29	0	100.3	29	△0	97.1
営業費用	1,631	2,039	408	125.0	2,230	190	109.3
営業利益	△317	129	447	-	200	70	154.2
空港運営事業	△500	△259	240	-	△205	54	-
リテール事業	44	272	228	609.9	316	43	115.8
施設貸付事業	130	110	△20	84.5	84	△26	76.2
鉄道事業	6	7	0	114.3	6	△1	84.6
経常利益	△482	106	589	-	167	60	156.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	△502	100	602	-	121	20	120.3

※ 外部顧客への売上高

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

■ 2023 年度連結決算

- 空港運営事業 : 国際線発着回数及び国際線旅客数が前期を大幅に上回ったことから、空港使用料収入は前期比 24.3%増の 311 億円、旅客施設使用料収入は前期比 111.5%増の 342 億円となり、営業収益は前期比 50.0%増の 903 億円、営業損失は 259 億円となりました。
- リテール事業 : 国際線旅客数が前期を大幅に上回ったことに加え、円安の影響等もあったことから、子会社が運営する直営店舗の物販・飲食収入は前期比 162.5%増の 738 億円、構内営業料収入は前期比 141.9%増の 97 億円となり、営業収益は前期比 152.5%増の 952 億円、営業利益は 272 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 航空旅客数の増加により駐車場使用料収入は前期比 23.2%増の 30 億円となる一方、国際線の水際対策終了に伴い、検疫所への貸付が減少したこと等から、建物貸付料収入は前期比 12.2%減の 181 億円となり、営業収益は前期比 6.8%減の 283 億円、営業利益は前期比 15.5%減の 110 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 7 億円と前期並みとなりました。

■ 2024 年度連結業績予想

- 空港運営事業 : 国際線発着回数及び国際線旅客数が増加すると想定しており、空港使用料収入、旅客施設使用料収入が増加し、営業収益は 136 億円の増収となり、営業損失は 205 億円となる見通しです。
- リテール事業 : 国際線旅客数が増加することを想定しており、物販・飲食収入等が増加し、営業収益は 118 億円の増収となり、営業利益は前期と比べ 43 億円増益の 316 億円となる見通しです。
- 施設貸付事業 : 第 8 貨物ビル供用開始等により営業収益は 5 億円の増収となる一方、ES 対応施設の整備による費用の増加があること等から、営業利益は前期と比べ 26 億円減益の 84 億円となる見通しです。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 6 億円と前期並みとなる見通しです。

4. 財政状態

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<連結貸借対照表>

(単位: 億円)

科目	2022 年度期末	2023 年度期末	増減	
	実績	実績	金額	%
流動資産	4,169	3,585	△583	86.0
固定資産	8,488	8,833	345	104.1
資産合計	12,657	12,418	△238	98.1
流動負債	1,508	1,161	△347	77.0
固定負債	8,795	8,763	△31	99.6
負債合計	10,303	9,924	△378	96.3
純資産合計	2,354	2,494	139	105.9

- 資産合計は、前期末比 1.9%減の 1 兆 2,418 億円となりました。
- 負債合計は、前期末比 3.7%減の 9,924 億円となりました。
- 純資産合計は、前期末比 5.9%増の 2,494 億円。自己資本比率は、前期末 18.0%から 1.4 ポイント増加し 19.4%となりました。

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<参考: 長期債務の推移>

(単位: 億円)

科目	2022 年度期末	2023 年度期末	増減		平均金利	
	実績	実績	金額	%	2022 年度期末	2023 年度期末
有利子債務	8,572	8,660	88	101.0	0.50%	0.50%
社債	4,506	4,606	100	102.2	0.43%	0.43%
長期借入金	4,066*	4,054*	△11	99.7	0.59%	0.59%
無利子債務	204	324	120	158.8	-	-
長期借入金	204	324	120	158.8	-	-
合計	8,776	8,984	208	102.4		

※財政融資資金の借入残高(4,000 億円)を含む

5. キャッシュ・フローの状況

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位: 億円)

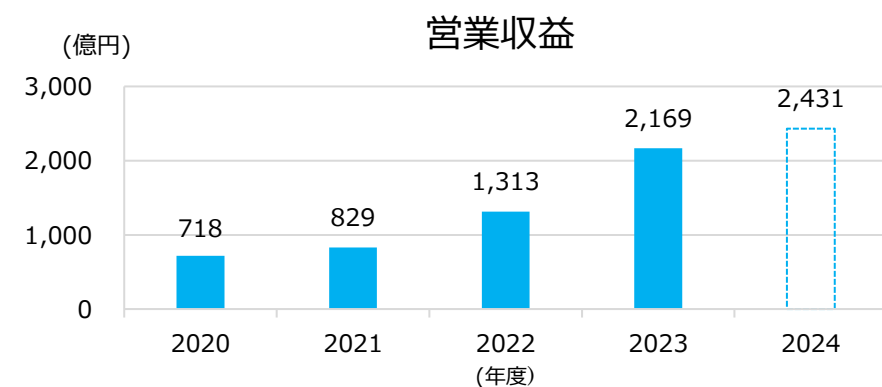
科目	2022 年度	2023 年度	増減
	実績	実績	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△17	621	638
投資活動によるキャッシュ・フロー	△658	△1,123	△464
フリー・キャッシュ・フロー	△676	△501	174
財務活動によるキャッシュ・フロー	695	△395	△1,090

- フリー・キャッシュ・フローは、501 億円のキャッシュ・アウト(前期比 174 億円の改善)となりました。
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が改善したこと等により、前期は 17 億円のキャッシュ・アウトであったのに対し、621 億円のキャッシュ・インとなりました。
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出の増加等により、キャッシュ・アウトは前期に比べ 464 億円増の 1,123 億円となりました。
 - 財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済があったこと等により、前期は 695 億円のキャッシュ・インであったのに対し、395 億円のキャッシュ・アウトとなりました。

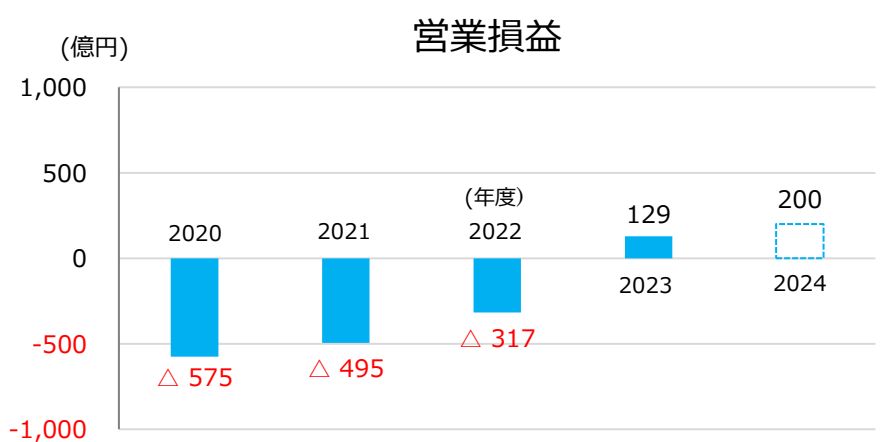
参考

【連結決算推移】 2024 年度通期は予想

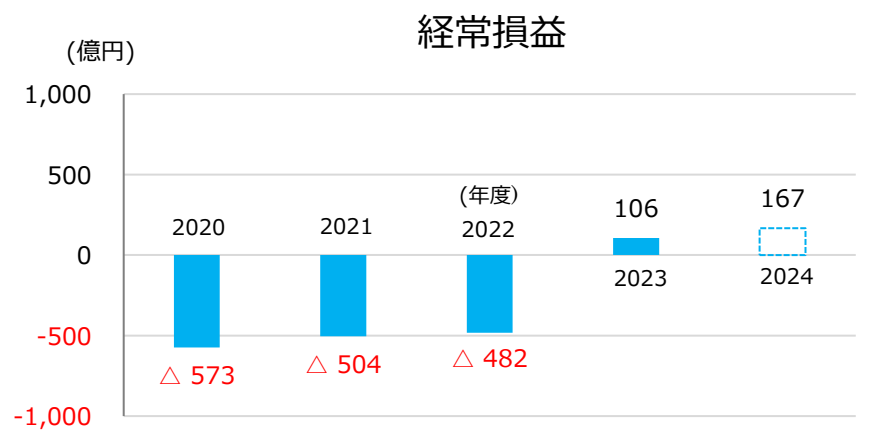
(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。



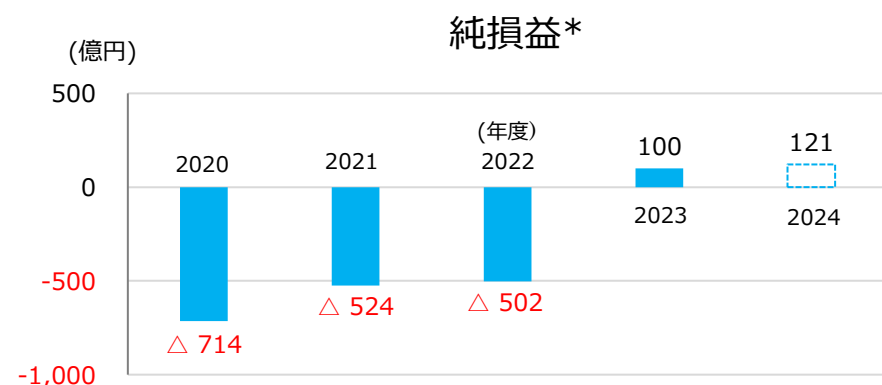
- <2023 年度>
 - ・3 期連続の増収
- <2024 年度通期予想>
 - ・4 期連続の増収となる見通し



- <2023 年度>
 - ・4 期ぶりの黒字
- <2024 年度通期予想>
 - ・4 期連続業績改善となる見通し



- <2023 年度>
 - ・4 期ぶりの黒字
- <2024 年度通期予想>
 - ・4 期連続業績改善となる見通し

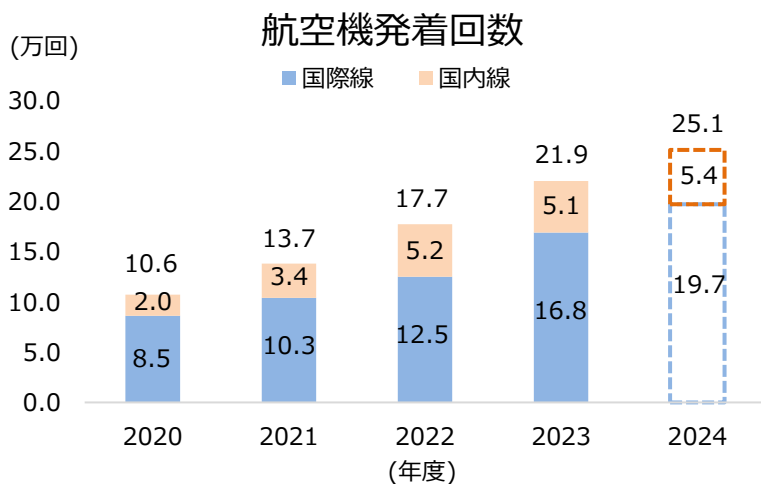


- <2023 年度>
 - ・4 期ぶりの黒字
- <2024 年度通期予想>
 - ・4 期連続業績改善となる見通し

*親会社株主に帰属する当期純損益

【航空取扱量推移】 2024 年度通期は見通し

(注)今回より、航空取扱量の数量表示についても、単位未満四捨五入から単位未満切捨てに変更しています。

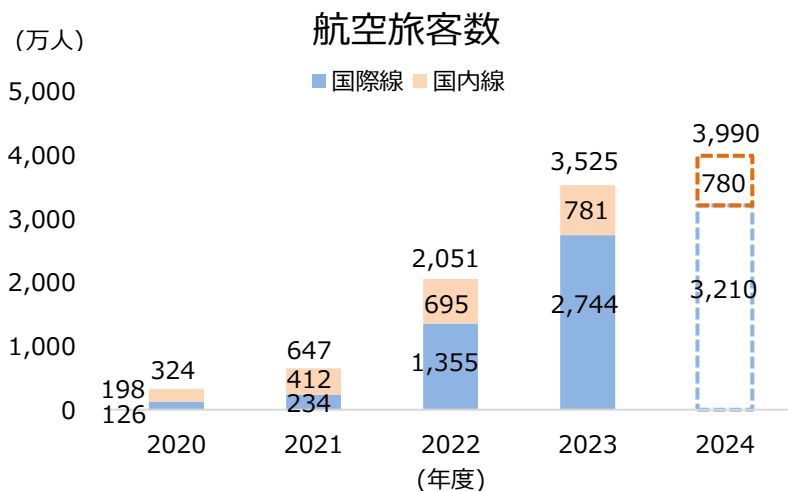


<2023 年度>

- ・全体: 3 期連続の増加
- ・国際線: 3 期連続の増加
- ・国内線: 3 期ぶりの減少

<2024 年度通期見通し>

- ・全体: 4 期連続の増加となる見通し
- ・国際線: 4 期連続の増加となる見通し
- ・国内線: 2 期ぶりの増加となる見通し



<2023 年度>

- ・全体: 3 期連続の増加
- ・国際線: 3 期連続の増加
- ・国内線: 3 期連続の増加

<2024 年度通期見通し>

- ・全体: 4 期連続の増加となる見通し
- ・国際線: 4 期連続の増加となる見通し
- ・国内線: 4 期ぶりの減少となる見通し